

令和 6 事業年度における業務の実績等に関する報告書



地方独立行政法人 天王寺動物園

目 次

1. 法人の概要	2
2. 令和 6 事業年度業務の全体概況	4
3. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第 9 条で定める項目別業務実績及び自己評価等	5
大項目 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	5
大項目 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	13
大項目 3 財政内容の改善に関する事項	15
大項目 4 その他業務運営に関する重要事項	19
4. 予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画	24
5. 短期借入金の限度額	24
6. 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画	24
7. 前号に規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	24
8. 剰余金の使途	24
9. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則（令和 3 年 3 月 31 日大阪市規則第 63 号）で定める業務運営に関する事項	25

1. 法人の概要

1. 法人の概要

1-1 現況

(1) 設立目的

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）に基づき、動物園を設置して、動物を導入し、飼育して公衆の観覧に供するとともに、動物の生態に関する調査研究及び教育活動を行い、併せて絶滅のおそれのある動物（以下「希少動物」という。）の繁殖その他希少動物の種の保存に資する活動を行うことにより、動物の生態についての市民の理解と関心を深めるとともに、環境保全に関する市民の意識の醸成を図り、もって生物多様性の保全に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

- 1) 動物園を設置すること
- 2) 動物を導入し、飼育して公衆の観覧に供すること
- 3) 動物に関する資料を収集し、整理し、及び提供すること
- 4) 動物の生態に関する調査研究を行うこと
- 5) 動物の生態に関する教育活動を行うこと
- 6) 希少動物の繁殖その他希少動物の種の保存に資する活動を行うこと
- 7) 他の動物園、水族館、学校その他の国内外の関係機関と連携し、及び協働すること
- 8) 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと

(3) 沿革

明治17年に大阪府立博物場附属動物檻として設置、大正4年1月1日に大阪市立動物園として開園。令和3年4月1日に、地方独立行政法人天王寺動物園となる。

(4) 設立に係る根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

(5) 役員の状況（令和7年3月31日現在）

理事長	山中 諄
副理事長	野村 俊明
園長兼理事	向井 猛
監事	吉田 恭子

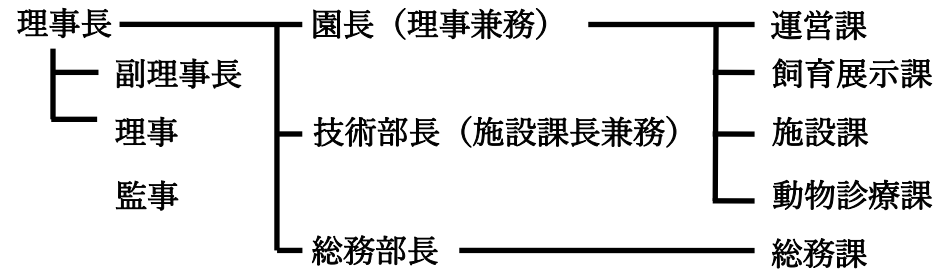
(6) 職員の状況（令和7年3月31日現在）

令和6年度末現在、76人であり、平均年齢は43歳となっている。このうち大阪市からの出向者は5人、令和6年3月31日退職者は5人であった。

(7) 事務所の所在地

大阪市天王寺区茶臼山町1-108

(8) 組織（令和 7 年 3 月 31 日現在）



(9) 資本金の状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

5,491,662,000 円

1－2 法人運営

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 26 条第 1 項の規定により大阪市長から指示された中期目標を達成するために作成する中期計画に基づき、業務の効率的かつ効果的な運営に努める。

2. 令和6事業年度業務の全体概況

2-1 令和6事業年度業務の全体概況

中期計画第4期にあたる令和6年度は、元日に発生した能登半島地震の傷跡が残る中、台風による甚大な被害も発生するなど自然の脅威を改めて感じる1年であった。

また、昨年度に引き続き世界的な原油・建築資材・半導体部品・飼料等の価格高騰、円安の進行による影響を受け、獣舎整備工事のみならず日常の点検・補修工事、飼育業務において大きな影響を受けた。

こうした中、当法人では、令和7年1月1日に開園110周年を迎え、令和7年には「大阪・関西万博」が開催されることから、令和6年を万博開催前の機運醸成と位置づけ、創意工夫しPRを行うとともに、動物福祉の向上と動物園のさらなる魅力向上に取り組んできた。

まず、動物展示の充実と動物福祉に配慮した飼育管理・高度な飼育技術の確立については、既存施設の活用及び展示の教育的効果向上に向け、在来種のチョウゲンボウ及びホンドギツネを導入した。外国人に人気のある在来種の導入によって、飼育数増加や新たな展示種などの展示効果や教育効果の向上、園の魅力向上につながった。また、令和6年1月に発生した能登半島地震で被災したのとじま水族館より、2月にカリフォルニアアシカ1頭を引き受けて飼育し、健康状態を良好に保った状態で、10月にいしかわ動物園（のとじまと同じ運営会社）へ送り返したことで、当園の飼育技術の高さを証明し、当園に対する信頼を向上させることができた。

繁殖の推進については、希少野生動植物種の取扱いについて、種の保存に資するものとして一定の基準に適合した動植物園等が「種の保存法」の規定により認定される「認定希少種保全動植物園」に令和6年7月25日付で国内16園目（令和7年3月27日時点で24園）に認定された。

これにより、希少野生動物種の個体等の譲渡し等について、原則として規制が適用されないことになり、繁殖等に向けた他園館との個体のやりとりをスムーズに行うことが可能となり、貴重な血統のニホンイヌワシの有精卵を譲り受け、当園飼育中のペアに抱卵させることに成功した。

獣舎整備については、昨今の物価上昇等による整備費上昇がみられたことから、コストダウンを図るとともにリニューアル対象獣舎を一部取止めとする見直しを行った。

業務運営の改善及び効率化については、職員の能力向上と意欲喚起のための取組として、インセンティブ制度（業績結果活用型報酬制度・人事評価結果活用型報酬制度・提案型研修制度）を構築・実施した。

収入の確保については、ファンクラブプレミアム会員特典のバックヤードツアーにて参加者に寄附のチラシを配布するなどの積極的に寄附制度の周知及びライオン募金付近に募金箱がある旨の案内看板を設置により、1,200万円を超える寄附を獲得した。また、遺贈手続きについて、令和6年11月に新たに協定を締結した。

110周年記念事業では、令和6年12月からOsaka Metro 御堂筋線にて車内つり革広告、令和7年3月には阪堺電車ラッピング広告を開始するなど、多様なPRを行った。110周年を迎えた令和7年1月1日は無料開園日とし、園長による記念講演、キリンのハルカスお誕生日会、ハイエースラッピングデザインのお披露目&展示会等のイベントを実施し、入園者数は2万人を超える盛況となった。

令和7年度は年度計画を着実に実行するとともに、動物園の更なる魅力向上にむけた取り組みを続けていくこととする。

3. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目 1-1	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上 (1) 展示動物の計画的な導入・確保 (2) 魅力的なイベントの企画・実施 (3) 積極的な情報発信 (4) 質の高い来園者サービスの提供	【評価点】 Ⅴ：計画を大幅に上回って実施している Ⅳ：計画を上回って実施している Ⅲ：計画を順調に実施している Ⅱ：計画を十分実施できていない Ⅰ：計画を大幅に下回っている。
------------	---	--

中期目標	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上 多くの方に来園したいと思っていただけるよう、展示動物の充実により天王寺動物園の魅力を向上させるとともにその魅力発信を強化する。また、再度来園したいと思っていただけるよう、快適な園内環境を創出する等、来園者満足度を高めるための園内サービスの充実を図る。 (1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。 (2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。 (3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。 (4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）展示動物の計画的な導入・確保						
来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。	コレクション計画に基づく新規希少動物の導入に向けて国内外他園等と調整を図る。	1	・既存施設の教育効果向上に向け、ホンドギツネおよびチョウゲンボウの導入に加え、コレクション計画でA'（繁殖不可・導入推進）で、熊本市動植物園のリニューアルに伴い搬出希望となっていたグラントシマウマ2頭を引き取った。 ・令和6年1月に発生した能登半島地震で被災したのとしま水族館より、2月にカリフォルニアアシカ1頭を引き受けて飼育し、健康状態を良好に保った状態で、10月にいしかわ動物園（のとじまと同じ運営会社）へ引き渡したことにより、当園に対する信頼を向上させることができた。 ・葛西臨海水族園の改修工事のため、令和6年9月に葛西所有のフンボルトペンギン24羽を預かったが、令和7年3月に健康状態を良好に保った状態で全羽を返却したことにより、当園に対する信頼を向上させることができた。	Ⅳ		
	JAZAの個体群管理計画に基づく種別管理担当等と緊密に連携を図り、情報収集を行うことで展示動物の充実に取り組む。	2	・JAZA（日本動物園水族館協会 総裁：秋篠宮皇嗣殿下）各委員会等の専門技術員の受嘱が令和5年度より1名増加し、のべ11名参加した。 ・各動物種の繁殖計画推進会議にも欠かさず参画しており、JAZAの生物多様性委員会へ貢献することで、園の信頼向上につながったことに加えて、ニホンイヌワシの有精卵を譲り受けることができた。	Ⅲ		
	JAZA、WAZA開催の研究会、地域別会議等に積極的に参画し、得られた情報を共有することで飼育技術の向上に取り組む。	3	・年間を通じて、JAZAの研究会等に積極的に参加し、飼育技術の向上に資するため、他園館の情報や飼育管理に係る最新の情報収集に努めた。 ・研究会等へ参加し得られた情報を共有することにより、職員の知識向上と動物福祉の向上を図ることができた。	Ⅲ		

(2) 魅力的なイベントの企画・実施						
誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。	これまでのイベントの検証結果を踏まえ、今後のイベントのさらなる魅力向上（学習効果・集客力・リピーター増）に繋げる。また、令和7年1月1日に開園110年を迎えることから、シンボルイヤーとして位置づけ、様々な周年イベントを実施する。	4	・クイズラリーやワークショップなどの企業との共催イベントや、プレモーニングズーなどの110周年記念事業におけるイベントの開催数は41件にもおよび、令和5年度より増加した。 ・各イベント実施後はアンケート等で検証を実施し、アンケートを実施したイベント24件のうち、23件が満足度や学習効果等の項目で80%以上の回答が高評価であった。 ・観覧場所を指定しているホッキョクグマイイベントのアンケートで「前後交代制にするか、何か対策をしてほしい」という意見があり、次回開催時にアナウンスによる対策を実施し、イベント満足度が85%から94%に向上した。 ・110周年記念事業では、PTを6回開催し検討を進め、記者会見や開園記念日までのカウントダウン投稿（110日間）、特設サイトの開設、御堂筋線1編成5車両の電車内つり革広告、阪堺電車フルラッピング広告といった、通常とは異なるアプローチで積極的に情報発信を行った。 ・令和7年1月1日の110周年開園記念日は、無料開園のほか、ユニフォームを着て記念撮影ができるユニフォーム撮影会など、様々な新企画のイベントを実施することにより、入園者数が昨年の5,463人をはるかに超える21,109人となった。	IV		
	継続してファンクラブ募集に取り組み、前年度を超える会員数を目指す。	5	・「ファンクラブスマートにアップグレード特典を追加」「ファンクラブブチの周知を強化（Instagramへの掲載追加、限定缶バッジのスケジュール公表）」「ナイト200や110周年、ホッキョクグマの日等に合わせたファンクラブブチ限定特典（缶バッジ）の追加」「バックヤードツアーの申込案内の周知およびバックヤードツアーの実施」「ナイト200や園外イベントでのファンクラブ呼び込み」など計画に即して施策を講じた結果、会員数が増加した。	III		
(3) 積極的な情報発信						
ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。	番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等を分析し、ニーズに合った情報発信に繋げる。	6	・番組企画やロケーションの積極的な受け入れにより、受け入れ件数を令和5年度よりも増やすことができた。（59件→81件） ・受け入れた番組等の情報やイベント実施後の開催報告、定期的なイベント情報や営業日の情報、110周年のカウントダウン、ラジオ番組のアーカイブ動画など、ニーズが高いと見込まれる内容を新たに発信し、発信内容を充実させるとともに、情報発信件数を増やすことができた。 ・各投稿ごとの閲覧数、リーチ、エンゲージメント、コメント件数やホームページの各言語ごとの上位閲覧ページの閲覧数、SNSフォロワー数などのデータ収集を継続して行い、今後の分析に活用するデータの蓄積を行った。	III		
	園の基本情報や調査研究、種の保全等の取り組みを理解しやすくするため、多言語ホームページを充実させる。	7	・日本語ページの更新時に合わせて多言語化ページ（英語・中国語・韓国語）の更新も行った。 ・110周年特設サイトを日本語版と合わせて英語版・中国語版・韓国語版をそれぞれ作成し、公開した。 ・日本語のみだった調査研究に関するページを、多言語化ページ（英語・中国語・韓国語）に追加するため、翻訳等の準備を行った。 ・多言語ホームページの充実に向け、見直し箇所の検討や、各言語ごとのトップページおよび上位閲覧ページの閲覧数のデータ収集を継続して行った。	III		

(4) 質の高い来園者サービスの提供					
来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。 さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。	引き続き、ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修、研修効果定着のための取組など、研修効果チェック）を体系的に実施する。	8	・5・6月 昨年度までのホスピタリティマインド醸成研修の効果検証に向けた実施手法を検討した。 ・7月 効果検証の評価基準を作成した。 ・8月 ホスピタリティマインドの評価にご協力いただく天王寺動物園ボランティアクラブ1915の方に、説明会を開催した。 ・9月 ホスピタリティマインドの定着度について検証した。 ※検証に協力いただいたボランティア 11名 ・10・11月 ホスピタリティマインド定着度チェックの結果を踏まえ研修内容決定 ・2・3月 ホスピタリティマインド醸成研修実施 ※委託業者を含めて74名参加 天王寺動物園ボランティアクラブ1915の方にご協力いただきホスピタリティ研修の効果を検証できた。	Ⅲ	
	定期点検に加え、職員による日常点検や来園者の声を踏まえた美観保持に取り組む。	9	・6月 令和5年度実施した巡視で指摘があった箇所について改善されているかを調査 ・7月 各課の修繕状況及び修繕完了予定日を把握するため進捗管理シートの作成を各課に依頼。 ・9月 進捗管理シートを集約し、各課に課内での周知実施 ・10月～12月 指摘を受けていた箇所について改修・改善を実施 ・1月 巡視点検の実施 令和6年度修繕箇所20箇所	Ⅲ	
	「園内掲示物整備アクションプログラム」に基づく園内掲示物の点検及び更新を行うほか、リニューアル獣舎についても統一感のある掲示物を作成する。	10	・巡視点検時及び通常業務時等、法人職員が適宜園内を点検し、令和5年度に策定したアクションプログラムの内容が掲示物の内容に反映されているのかを確認し、アクションプランにそぐわない掲示物については随時更新してきた。 ・とくに、ゲート付近の掲示物について、統一感がなく、発信情報過多になっていたため、整理するとともに、劣化したサインについては適宜交換した。 ・また、サイン会議では、アクションプログラムに沿って議論をしているか適宜確認した。	Ⅲ	
	令和5年度に完了した実施設計に基づき、ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設整備を実施する。	11	・ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設とするため、施工業者から提出される施工図の確認及び現場施工状況等の確認を適時に実施した。 ■施工済み箇所（R6年度末時点）■ ・以下の2施設で円滑な移動・観覧ができるように配慮した整備を行った。 （アジアの森（拡張）） ・工事によるメイン園路通行止に伴う切替園路（鳥の楽園側：7月30日切替開通）における、幅員(4m以上)の確保、勾配1/12.5以下、手摺設置 （アフリカの森（改修）） ・改修で生じる高低差（園路と屋内展示空間：約20cm）に対する、勾配1/12以下スロープの設置、手摺設置	Ⅲ	
	継続して、来園者の声を分析し園運営の改善に取り組む。（HP・SNS含む。）	12	月始めに毎月のアンケート結果の分析を行い職員に周知した。 お客様満足度アンケート収集数50を目標に、収集数が少ない場合は、法人職員がミュージアム付近で収集を行った。 ・5月 質問項目を改定し、2点項目を追加（動物園の情報収集方法、来園動機） ・6月 多言語（英語版、中国語版、ハングル版）でのお客様満足度アンケートの収集を開始 園内のテーブルベンチ及びお手洗いにアンケート収集のQRコードを掲示（約120箇所） ・12月 劣化しているサインについては随時交換 ・3月 年間アンケートまとめ 改善事例：工事によって、てんしばゲートから北園方面への園路がわかりにくいとお声をたくさんいただいたため、クマ舎、ペンギンパークアシカワフの間に4面のポスター掲示物を作成し、園路案内に努めた。	Ⅲ	

大項目 1-2	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進 (1) 間近で動物を感じる機会の提供 (2) 園内外における学習機会の提供 (3) NPO法人・ボランティア等との協働による学習機会の提供
------------	---

中期目標	2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進 平成30年8月に策定した「天王寺動物園教育ポリシー」を踏まえて教育普及機能を強化し、動物のにおいや鳴き声、様々な行動に実際に触れる機会を提供することに加え、野生動物を取り巻く地球規模の環境問題も視野に教育普及活動を行い、SDGsへの貢献をめざす。 (1) 間近で動物を感じる機会の提供 飼育動物の展示、「ごはんタイム・おやつタイム」の実施、餌やり体験や「ふれあい広場」の運営等を通じ、リアルな動物を見る、声を聴く、においを感じる等の生きている証に出会う機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。 (2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）間近で動物を感じる機会の提供						
ごはんタイム・おやつタイムの実施や動物への餌やり体験等、新たなふれあい広場の運営を通じ、来園者が間近を感じる機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。	ペンギンパーク&アシカワーフの「おやつ・ごはんタイム」について、より環境問題についての理解を深める内容とするため、アンケートの分析結果に基づいた評価を実施し、プログラムの改善を図る。	13	・5月末までのアンケートの集計内容を一旦集約・分析したが、概ね好意見が多かったこと、加えてアシカによる咬傷事故や欠員により、トレーニング方法の再構築などが必要であったため、アシカについては「ごはん・おやつタイム」の改善までは至らなかった。 ・一方、ペンギンにおいてはアンケートの母数が少なかったため、QRコードの読み取りで回答できるようにするとともに、設問を簡潔にすることで、親子のコミュニケーションツールとして活用できるよう改善した。 ※アンケートの内容 ・ペンギンの主食はなにか、野生のペンギンの生息状況、おやつタイム・ごはんタイムでもっと聞きたい内容など	Ⅲ		
（２）園内外における学習機会の提供						
教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。 また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。	「教育普及アクションプラン」に基づいたメニューを継続実施し、その実施アンケート結果に基づいてメニューを改善する。	14	・教育普及アクションプランに基づくイベントやワークショップを開催し、多くの利用者に行動変容を促せるような教育普及活動を実施した。 (1) ディスカバー・プログラム 307件 ディスカバー・プログラムに動物ショート・ガイドをメニューとして復活させた。 (2) 「園長におまかせ！」講話 6件 (3) 動物とおき話 24件 ・ディスカバー・プログラム利用者アンケート 「生き物が暮らす環境を守っていくために、身近にできることは何かありますか？」との設問に対して、「ごみのポイ捨てをしない、食べ物を大切にすること。」「生き物が暮らしやすい環境とはどのような環境か、など意識を向ける。」「関心を持って情報を集めていきたい。積極的にプログラムなどに参加したい。」「環境に優しい生活をする。また、それらを身近な人に伝え続けること。」等の意見が寄せられ、行動変容につながる回答が得られている。	Ⅲ		
	「天王寺動物園ボランティアクラブ1915」の活動機会を増やすほか、NPO法人や大学等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増やす。	15	「ボランティア1915」の応募者に対し、活動機会を増やすためイベント数を増やした。また、「ボランティア1915」会員も令和6年度末で28名となった。 令和6年度 当初 会員14名 令和6年度 7月 会員17名（＋3名） 令和6年度 11月 会員24名（＋8名、△1名） 令和6年度 3月 会員28名（＋4名）	Ⅲ		

大項目 1ー3	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立 (1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 (2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進
------------	---

中期目標	3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立 動物の高齢化と獣舎の老朽化が進むなか、動物園の主役である動物たちに事故が起こらないように対策を講ずることはもとより、健康で幸せに暮らせる環境を創出することは、動物園経営における最重要事項であり、また、最低限の責務でもあることから、飼育管理機能を強化する。特に、これまでに培った飼育技術を着実に継承しながら、さらに高度化させるとともに、世界に通用する飼育基準に適合した獣舎整備を着実に推進することで、動物福祉の充実に図り、天王寺動物園の魅力向上に繋げる。 (1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む。 (2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）動物福祉に配慮した飼育の実践						
動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。	令和5年度に起きた動物の逸走事故を踏まえ、獣舎整備の際の確認を徹底するとともに、既存獣舎についても定期的に施設チェックを行う。また、事故の風化を防ぐため、継続的な安全教育を実施する。	16	飼育管理マニュアルの定期検証を上半期および下半期の2回実施した。検証の結果マニュアルとの齟齬は認められなかった。 獣舎整備に係る確認として、チンパンジー舎の改修工事について、逸走防止の観点から外部有識者の現場確認を含め、必要な確認を実施した。 ヒヤリハットについては原則的に事例が起こった当日に記載するシートを作成、共有し、当日出勤の管理職が原因、再発防止について確認およびコメントを付し、全課へ供覧する取扱いとした。 予算措置を講じた特定動物の獣舎における飼育管理通路への監視カメラ等の設置完了。 ・ライオン舎監視カメラ ・オオカミ舎監視カメラ ・ジャガー舎監視ミラー	Ⅲ		
	「環境エンリッチメントおよびハズバンダリートレーニング取組み方針」で定めた取組み種の進捗：トレーニング92.5%について100%を目指す。エンリッチメントについては100%となっているため、質の向上を図る。	17	令和3年度に策定した「環境エンリッチメント・ハズバンダリートレーニングに関する方針」に掲げた対象種について、すべての種においてトレーニング及びエンリッチメントの実施をしており、継続と質の向上に取り組んだ。 加えて、環境エンリッチメントワークショップを開催し、他の園館の環境エンリッチメントについて学び実践することで動物福祉を向上させることができた。	Ⅳ		

(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進						
新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。	新病院・研究棟整備の基本構想（令和7年度策定予定の基本計画のベースとなるもの）を、引き続き関係部署からなるPTにて協議し、策定する。	18	・新病院・研究棟PTを中心に、基本構想で必要となる条件やこれまで収集してきた情報等を整理し、基本構想を令和7年3月31日に策定した。 ・策定にあたっては、PTメンバーのほか園長や各課職員および施設整備にかかる外部有識者の意見を反映した。 ・情報収集では、新病院や研究棟への参考とするため、大学の獣医学部の施設を調査した。	Ⅲ		
	第一期リニューアル整備事業に関して令和6年度当初の計画工程に対し、年度末の年度進捗率が100%となるよう整備を実施する。	19	・アフリカの森（チンパンジーベース）は、3月末までに完成した。 ・アジアの森（拡張）・ホッキョクグマ舎では、現場着手後に地中障害物等※が発見され、除去等による工程遅延が約3ヶ月程度発生したため、年度進捗率が100%未満[令和6年度予算額まで出来高が未達（61.5%）]となった。 ※工事遅延の理由 ・地中障害物…撤去されず地中に残置されたままの障害物の除去（建物の基礎、不要となった埋設管、レンガや（鉄筋）コンクリート、アスファルト等の殻など） ・不明埋設管…埋設管で図面に記載がなく、埋設場所、種類、現役管か廃止管等の調査や、施工場所に支障となる埋設管の迂回対策 ・アスベスト撤去…アスベスト含有建材が使用されているかを調査し、含有されていれば防護措置を施しながら撤去	Ⅱ		
	維持管理計画に基づくとともに、動物福祉の観点にも考慮し必要な小規模な改修を計画的に実施する。	20	・小規模改修について、施設課および契約事業者と協議、確認しつつ実施した。 ・施設管理点検に基づく補修・点検について、軽微な故障箇所については、各担当的確に調整を行い、包括管理事業者による改善を適時に実施した。重大な故障箇所の確認はなかった。 ◆令和6年度修繕件数：114件（内、緊急修繕10件） ※令和5年度修繕件数：73件（内、緊急修繕12件） ・樹木の維持管理については、包括管理事業者の業務範囲も含め、危険樹木等を撤去した。	Ⅲ		

大項目 1－4	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 繁殖及び調査研究活動の推進 (1) 繁殖の推進 (2) 調査研究の推進と知見の共有
------------	--

中期目標	4 繁殖及び調査研究活動の推進 動物の生態に関する各種調査研究活動や希少動物の繁殖を通じ、種の保存に貢献する。 (1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献している。 (2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
(1) 繁殖の推進						
種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。 また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。	繁殖推進種ごとの繁殖に向けたチェックポイントの項目を継続実施するとともに、必要に応じてチェックポイントの見直しを継続する。	21	・繁殖に向けたチェックポイントについては継続実施した。 ・並行してチェックポイント項目の妥当性の検証、変更を行った。 ・新たなペアの可能性を探るため、プチハイエナ、ソデグロツルの新規個体導入に向けて情報収集をおこなった。 ・新たなペア形成のため、日本動物園水族館協会チンパンジー繁殖計画のもと、3月にチンパンジーのメス1頭を導入した。（当園で飼育しているオスとの同居は令和7年度に開始するため、チェックシートへの追加検討は令和7年度に行う予定）	Ⅲ		
	オグロツルの継続的な精液採取や他園館との連携によるメスへの精液注入など人工繁殖に向けて取り組む。	22	・オグロツル（オス）の人工採精のための技術習熟活動を継続した。また、他園への精液提供に向けた輸送容器内の温度検証を実施した。採精手技習得のために頻回で採精を試行した。 ・平川動物園から産卵後に連絡を受け、当園個体から採取した精液を空輸したが受精には至らなかった。 ・埼玉県こども動物自然公園および平川動物公園と人工授精を実施するための手順を含む覚書を締結し、当園のオスから採精した精液を当日に輸送し、相手先のメスへ人工授精する手順を整えた。	Ⅲ		
	・ニホンイシガメについて保全につながる啓発活動を行い来園者の理解を深める。 ・オオサンショウウオの保全につながる企画を立案し実施する。また、生息地の調査に同行し、保全の知識や調査手法の獲得に努める。	23	ニホンイシガメおよびオオサンショウウオに関する啓発活動を実施し、行動変容につながるアンケート結果を複数得たこと、ホッキョクグマの日イベントで来園者の行動変容（募金など）があった。 また、オオサンショウウオについて大阪府下の生息域内保全活動へ職員が年間を通して継続的に参画した。	Ⅲ		

(2) 調査研究の推進と知見の共有					
自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。	「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。	24	各班1つ以上の研究テーマを設定し研究を進めるとともに、外部機関との共同研究を積極的に受け入れ、実施した。 <各班の研究テーマ> 1班「ニホンイシガメのシェルロットに対する治療方法の検討」 2班「ハクビシンの行動調査」 「ホッキョクグマの展示時間中のプール利用率の調査」 3班「ヨウスコウワニ屋内・バックヤードベアの継続した繁殖と、屋外ベアによる繁殖に向けた環境整備と飼育管理」 「チリーフラミンゴとベニイロフラミンゴの継続した繁殖と、雛の生存率を上げるための環境改善」 「ハミルトンガメの繁殖を目指した環境整備」 4班「キリンの動画確認による睡眠時間の分析」 5班「ライオンの減量&トレーニング」 ふれんどしっふ 「テンジクネズミの体重管理」 企画 「飼育業務と幸福度との関連に関する調査」	Ⅲ	
	園内掲示、ホームページ等で共同研究実績や、取り組み段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図るとともに、当園の成果については研究会等で発表する。	25	・近畿ブロックの会議を含むJAZAの研究会、会議等で研究成果を発表した。共同研究については、許可が得られたものは園内でのポスター掲示や、ホームページで公表した。 ・令和6年度の全国動物園技術者研究会にて「チンパンジーの逸走事故と事後の対応について」というテーマで発表し、ベストプレゼン賞を受賞した。	Ⅳ	

大項目 2-1	2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 自律的な組織経営 (1) 機動的な組織体制の構築 (2) 適材適所の柔軟な人事配置
------------	--

中期目標	1 自律的な組織経営 (1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 (2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）機動的な組織体制の構築						
法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。	引き続き法人の目指す姿を対外的に発信する。また、法人の目指す姿の実現に向け、職員の意識醸成等に継続的に取り組む。	26	○ホームページでの情報発信 7月 令和5年度業務実績評価の公表 8月 令和5年度年報を公表 SDGsの取り組み、調査研究の内容を更新 9月 万博PRを含む110周年特設サイトを開設し、その中で理事長・園長の挨拶を掲載 ○職員研修での意識の定着化 6月 新規採用者研修 9月 コンプライアンス研修 11月 服務研修・文書事務研修 1月 コンプライアンス強化月間・管理監督者向け研修 2月 動物園学研修 3月 ホスピタリティマインド研修 e-ラーニング研修（リーダー・係長級、課長代理・課長級）	Ⅲ		
（２）適材適所の柔軟な人事配置						
中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。	法人の組織体制（外部の専門人材登用を含む）について検討し、随時採用をはじめ柔軟に対応する。	27	次年度の体制及び専門人材の登用について各課ヒアリングを4月に実施し、5月より派遣職員の数について市との協議を進めた。9月に業務執行体制案ができた後、採用募集活動を進め、10月～2月にかけて採用試験を行い、的確に人材採用を行った。	Ⅲ		

大項目 2-2	2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 人材の確保・育成と職員的能力向上・意欲喚起 （1）人材の確保・育成 （2）職員的能力向上と意欲喚起
------------	--

中期目標	2 人材の確保・育成と職員的能力向上・意欲喚起 (1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会及び世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員的能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。）に関する研修参加等）を積極的に設ける。 (2) 職員的能力向上と意欲喚起 インセンティブが適正に働く人事評価制度を確立することにより、勤務意欲を高め、職員個人の能力及び組織力の向上を図る。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
(1) 人材の確保・育成						
人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。 また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。	必要に応じて人材育成方針及び計画の修正、資格取得支援対象資格の追加を行う。	28	人材育成方針及び計画に基づき各種人事業務を実施し、4月に各課長にヒアリングを行い、人材育成方針での令和6年度研修計画について、状況を確認し修正した。 ※主な変更点（研修計画） ・飼育展示課における新規採用者の説明において飼育管理マニュアルの見直しを導入。 ・年度当初に全職員向けの防災研修の実施。 ※資格取得支援実績 准認定ファンドレイザー資格継続にかかる手続き2件	Ⅲ		
	人材育成方針及び計画に基づき研修を実施する。多様化、複雑化に伴い内容が相互に関連、重複する研修については類型化のうえ体系的に実施する。	29	人材育成方針及び計画に基づき研修を実施し、アンケートを通じて効果、業界で求められるスキルを踏まえ、研修計画を随時見直した。 ・4月 各課長にヒアリングを行い、人材育成方針での令和6年度研修計画について追記修正。 ・5月 防災研修 ・6月 新規採用者研修 ・9月 コンプライアンス研修・情報セキュリティ研修・契約事務研修 ・11月 服務研修・文書事務研修実施。 ・1月 コンプライアンス研修（管理職向け） ※風通しの良い職場づくりのため管理職として留意すべき視点について研修を行った。 ・2月 動物園学研修 ・3月 ホスピタリティマインド研修 e-ラーニング研修（リーダー・係長級、課長代理・課長級）	Ⅲ		

(2) 職員の能力向上と意欲喚起					
法人設立当初に策定した評価制度の定期的な効果検証を行い必要に応じて見直しが行なわれる仕組みを構築する。	令和5年度に改正した評価制度の内容について検証を実施するとともに、よりインセンティブが働く評価制度の構築に向けて検討、実施する。	30	インセンティブがより働く評価制度の構築について検討を行い、①業績結果活用型報酬制度②人事評価結果活用型報酬制度③提案型研修制度を構築・実施した。 ①業績結果活用型報酬制度 全職員が中期目標の達成を目指すにあたり、目標を上回る結果に対するインセンティブとして報酬を全職員に配分することで、職員が一丸となって取り組む動機づけとすることを目的として実施。 ②人事評価結果型報酬制度 個人の仕事への成果をすばやく給与に反映させることを目的として実施。 ③提案型研修制度 法人職員が自ら、法人における課題の解決に向けて、先進的な取り組みをする園・館などを視察し、また実地に学ぶことを通じて、課題解決の方策を提案する機会を提供することにより、法人のさらなる発展に資するとともに、職員の働く意欲向上のためのインセンティブとすることを目的して実施。	Ⅲ	

大項目 2-3	2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 効果的・効率的な業務執行 (1) P D C Aサイクルの確立 (2) I C Tの導入及び活用
------------	--

中期目標	3 効果的・効率的な業務執行 (1) P D C Aサイクルの確立 評価委員会の見解に基づき本市が評価基準を作成し、その評価基準を動物園経営のP D C Aサイクルに組み込み効果的・効率的な業務執行に努める。 (2) I C Tの導入及び活用 I C Tを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
(1) P D C Aサイクルの確立						
法人設立初年度は、評価の対象となる年度計画の各項目毎に適切に進捗管理が実施できるような仕組みを構築し、日常業務の履行が評価基準の達成に自然と結びつくよう取り組みを行う。さらに、達成状況を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。	年度計画および中期計画の進捗状況について定期的に市と確認する。	31	・大阪市と毎月1回の定例会議（係長級、部課長会）及び各種会議において都度情報共有を行い、年度計画の進捗状況、見込み評価の実施方法、中期計画の策定にかかるスケジュールの調整・検討を行った。	Ⅲ		
(2) I C Tの導入及び活用						
事務効率化の観点から人事財務部門へのI C Tの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、I C Tの導入と日常的な活用に取り組む。	人事財務システムの安定運用を図るため、操作マニュアルの更なる充実を進めるとともに、必要に応じてバージョンアップや新たなシステム導入を検討する。	32	勤怠システムについて、新規採用者・管理監督者向け勤怠システム研修を実施した。研修資料については各課周知。	Ⅲ		

大項目 3-1	3 財務内容の改善に関する事項 1 収入の確保
------------	-----------------------------------

中期目標	1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価	市長評価		
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
1 収入の確保						
事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。	入園料収入5.9億円・入園者数206万人を目標とする。（令和6年度予算）	33	・仮チンパンジー舎のスロープの手すりに高温対策のカバーの設置や銅板塀による動物園の雰囲気をもたせないための動物シールの貼付け、ナイトZ00中に安全に観覧いただくための照明の設置等を行った。 ・シェラトン都ホテルと連携事業実施（7月～9月）339人販売 ・ナイトZ00では、ゲリラ的に実施する飼育ガイドやおやつタイムに加え、夜の動物とお話やトークカフェを各日で実施することでイベントを充実した。 ・園内フリーWi-Fiを、9月26日にてんしばゲートに設置完了し運用を開始した。 ・お客様満足度アンケートの意見より、昨年に引き続きナイトZ00開催日にトークカフェを開催し、昨年は1日開催から拡充し3日間行った。 - また、休憩場所が少ないという声に対して、旧シカ舎跡を休憩スペースとして開放し休憩場所の充実を図るほか、園内ベンチの増設も行った。 - さらに暑さ対策として、ホッキョクグマ舎前にミストを増設するほか、昨年に引き続きスプリングラーの設置も行った。 ・令和6年8月から大阪メトロのBRT（今里ライナー）と相互送客を目的とした割引券の運用を開始した。 ・令和6年11月1日より大阪楽遊バスの運用を開始した。（約500人/月） ・令和7年1月1日に110周年を迎えたことから無料開園日とし、こどもユニフォーム撮影会等のイベントを実施した結果、入園者数は2万人を超える盛況となった。なお、こどもユニフォーム撮影会イベントには141組512名の参加者があった。 ・令和7月2月22日に110周年イベントとしてこどもユニフォーム撮影会等のイベントを実施した。参加：199組 346名 令和6年度入園料収入：528,658,149円 入園者数：1,697,555人	II		
	令和4年度に実施したクラウドファンディングで培ったノウハウを生かし、2回目のクラウドファンディングを実施する。	34	・動物のエンリッチメントにかかる設備購入を目的とすることを8月に決定し、必要金額の確認や実施時期の検討を進めていたが、9月に価格高騰により目的の設備が非常に高額であることが判明した。クラウドファンディングのみで資金を集めることが難しいと考えられ、10月以降、企業への営業や内部の他の財源を検討したが、不足分を補える財源が見つからず実施が困難であるため、12月に内容を変更することを決定し、再度検討を行うこととなった。 ・再度、内容、時期、必要金額など、令和7年度の実施に向け検討を進める。	II		
	これまでの営業実績の検証を踏まえた「天王寺動物園における渉外営業戦略」に基づき渉外営業を実施し、入園料外収入の確保に努める。	35	・令和5年度の営業ではファンクラブの更新率やクラウドファンディング協力の期待が高かったことを踏まえ、営業計画(令和6年度)について課内での検討を進め、営業戦略（令和6年度）を策定した。 ・策定した営業戦略に基づき、110周年記念事業への協力や今後実施予定のクラウドファンディング、従来継続していただいているご寄附について、今後も継続いただけるよう、長期間寄附を継続している法人等に対し、営業用物品等を準備した上で、営業活動を実施した。（訪問37件、来訪2件、送付45件） ・営業の結果、従来の継続寄附とは別に新たな支援として、4件の現金寄附（95万円）、1件の物品寄附（256万円）、1件のイベント協力があった。	IV		

	寄附額12百万円（ファンクラブ、クラウドファンディングを除く）を達成する。	36	・遺贈手続きの金融機関との提携に向け、関係機関との調整を進め、10月に新たに協定を締結した。 ・遺贈に関する提携について記載したリーフレットを作成し、提携金融機関および園内に配架するとともに、ホームページに遺贈寄附提携の内容を追加し、リーフレットのダウンロードができるよう修正を行った。 ・9月にライオン募金付近に募金箱がある旨の案内看板を設置したことで、募金額が令和5年度より2倍以上増加した。（459千円→1,032千円） ・ファンクラブプレミアム会員特典のバックヤードツアーにて参加者に寄附のチラシを配布するなど積極的に寄附制度について周知し、バックヤードツアー参加者からの個人寄附増につながった。 ・営業計画に基づき営業を実施し、4件の現金寄附、1件の物品寄附を獲得した。 ◆寄附額 令和5年度 27,349,826円 令和6年度 27,881,635円	IV		
	園内事業者と連携しながらオリジナルグッズの開発と販売促進を行い、売上目標額22百万円を達成する。	37	園内事業者と連携し、コラボ商品をはじめ、魅力ある商品の開発を行ってきた。また、110周年オリジナルグッズとしてミニタオル、Tシャツ、コンベイトウ缶、クリアファイル、アクリルキーホルダー、マグカップ、トートバックや時計（110本限定）を提案し販売してきた。 さらに、ショッピングバッグ（紙袋）も110周年バージョンデザインを制作し販売した。 ・また、110周年のオリジナルグッズについては、学習棟内において、販売促進のため紹介ブースを設置したほか、HPでもグッズを紹介しPRを行った。 【歩合収益額】R7.3月末現在：22,211千円 R6.3月末現在：19,830千円	III		

大項目 3-2	3 財務内容の改善に関する事項 2 経費の節減
------------	----------------------------

中期目標	2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
2 経費の節減						
日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。	・ごみの排出量削減およびペーパーレス化に取り組む。 ・水道・電気使用量について、前年度（令和5年度）と比較・検証を行い、使用量節減の方策（新オープン施設を除く既存施設での効率化等）を検討・実施する。	38	・ごみ排出量削減に向けて分別徹底のポスター掲示を行った。 ・電気使用量については、真夏、真冬の空調の使用増について、動物の生活に影響のない範囲で温度設定や使用台数の確認を適宜おこない、適正な電気使用量となるよう注意喚起を行った。 また、電力のデマンドが出た際適宜節電の呼びかけを行い、12月より関電からの節電要請時に朝礼等で節電協力を呼びかけた。 ・会議・研修等での資料の無駄な出力を防ぐよう都度周知した。 法人内研修において資料の一部を印刷せずメール配付とする・一部のアンケートをQRコードからの回答に変更し、研修実施時の紙の使用量を約半減した。	Ⅲ		
	第一期リニューアル整備事業に係る整備費（物価上昇や地中障害対策等の外部影響を除く）について、中期計画で定める予定額（6,460百万円）内での整備を目指し、内容や仕様の見直し等によりコストを縮減する。	39	・実施設計・現場施工で判明した地中障害・不可避要因（アスベスト除去・不明埋設管・安全対策等）への対応や物価上昇により、事業費が増額となった。 ・施工業者と設計変更内容及び工事費の増減を適宜把握し、増額への対策として施工業者から代替案を提示させ、園内関係部署とも実施可否の確認を行いながら、コスト縮減に向けた調整を図ってきた。 ・中期計画上の予定額を超えるものの、増額の内訳は上記のとおり外部影響によるものである。 ※事業費 中期計画での予定額 6,460百万円 総事業費（予定） 7,262百万円（+802百万円）	Ⅲ		

大項目 4-1	4 その他業務運営に関する重要事項 1 内部統制の強化 (1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 (2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用 (3) コンプライアンスの周知徹底 (4) 個人情報等の保護 (5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施 (6) ネットワークセキュリティの強化
------------	--

中期目標	1 内部統制の強化 法人が適切に業務を運営していくため、内部統制の確立・強化に必要な環境を整備する。 (1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 (2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用 (3) コンプライアンスの周知徹底 (4) 個人情報等の保護 (5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施 (6) ネットワークセキュリティの強化
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
①重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築						
集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直し可能な仕組みを構築する。	内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。	40	【内部統制委員会開催内容】 ・5月 内部統制委員会において、令和5年度の内部統制委員会における取組結果の確認を行い、6月の理事会において報告を行った。 ・7月 個人情報漏えい事案が発生したため、臨時で内部統制委員会を開催し、発生状況の調査および再発防止のための施策について議論し、全職員への周知を行った。 また、7月の周知に加え、9月の情報セキュリティ研修でも個人情報の取り扱いについて具体的な施策（メールの送付先種別、自動引用の停止方法など）も踏まえ説明した。 ・10月 職員による窃盗事案が発生したため、内部統制委員会等を開催し法人規程に基づき対処（11月懲戒解雇）、一連の経過については適宜公表した。 再発防止策（施錠徹底等）を速やかに講じたうえで職員に周知徹底した。 ・12月 内部統制委員会において、1月のコンプライアンス強化月間の取り組み内容を決定し、1月 コンプライアンス強化月間として、チェックシートでコンプライアンス意識のセルフチェックを実施するとともに管理監督者向けコンプライアンス研修を実施した。	Ⅲ		
	リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。	41	・リスク管理計画に基づいてリスク管理委員会を開催し、リスク管理を着実に実施した。 第1回 リスク管理状況の確認を行った。また7月に発生した個人情報漏洩事案及び10月に発生した窃盗事案について、問題点の確認を行い再発防止策の策定を行った。 第2回 令和7年度リスク管理計画を策定し、令和6年度の状況を踏まえ、個人情報漏洩と園内の盗難・器物損壊について新たな取組事項とした。 ・獣舎整備については週1回の会議においてスケジュールの共有を行った。 ・動物の脱走防止・機能保持と現状把握を目的とした保有施設の点検・補修を計画的に実施した。	Ⅲ		

②法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用						
法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。	諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則など）については、全職員を対象とした研修を定期的に実施する。	42	諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し、必要なものは新たに整備した。 変更内容については定期的を実施する研修等で周知を行った。 ◆改正もしくは新規制定した規程類 「地方独立行政法人天王寺動物園契約規則」(R6.6) 「地方独立行政法人天王寺動物園旅費に関する規程」(R6.8) 「地方独立行政法人天王寺動物園職員勤務時間、休日及び休暇等に関する規程」(R6.8) 「地方独立行政法人天王寺動物園職員給与規程」(R7.3) 「地方独立行政法人天王寺動物園職員特殊勤務手当支給規程」(R7.2) 「地方独立行政法人天王寺動物園寄附金使途協議会設置要綱」(R6.8) 「地方独立行政法人天王寺動物園長期継続契約に関する要綱」(新規) 「地方独立行政法人天王寺動物園会計規程」(R6.11) 「地方独立行政法人天王寺動物園目的積立金使途協議会設置要綱」(新規)	Ⅲ		
③コンプライアンスの周知徹底						
法令順守に加えて、独立行政法人の職員として社会（来園者）の要請に応える行動は何かを理解する。	コンプライアンス意識の浸透のため、研修のほか強化月間などの取り組みを継続して実施する。	43	・9月に係長級以下の全職員を対象にグループワークを含むコンプライアンス研修を実施した（出席率は100%）。起こりそうな事案や過去多くの地方自治体で起きている事案などをもとにグループワークで議論した。研修後のアンケートでも9割近くの職員が「この内容は今後職場で活用及び応用ができそう」と答えており、意見としても「法人の事例も挙げられていたので、身近なところに注意しないとならない。」「コンプラ意識をもう一度高めようと思った。」「前回聞いていた内容でも、時間が経つと曖昧になっていた部分が多々あることに気が付けてよかった。」「などコンプライアンス意識を高く持つことの重要性を認識したという職員の回答が得られた。 ・1月をコンプライアンス強化月間と位置づけセルフチェック、啓発ポスターの掲示を行った。 ・1月にコンプライアンス研修（管理職向け）を実施し、風通しの良い職場づくりのため管理職として留意すべき視点について研修を行った。	Ⅲ		
④個人情報等の保護						
個人情報等の保護に関する法律に基づいて整備した法人の個人情報保護規定を職員全員が十分に理解・運用できている状態とする。	個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。	44	・年度当初に個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう周知した。 ・7月に個人情報の漏えい事案が発生したため、全課に注意喚起をした。また、9月の情報セキュリティ研修でも今回の事案を踏まえ、研修内容に個人情報取扱についての内容を盛り込み管理の重要性を説明・周知した。	Ⅲ		
⑤内部監査及び監事監査の適切な実施						
内部監査により定期的に内部統制環境の有効性をモニタリングするとともに、監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。	内部監査・監事監査を実施するとともに、改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。	45	内部監査・監事監査を定期監査として次のとおり実施した。 ※随時監査は実施せず。（大阪市からの監査委員監査あり。） ◆監査テーマ ＜内部監査＞ ・請求事務 ・決裁・供覧文書管理 ・寄附収受業務・ファンクラブ会員受付業務 ・個人情報取扱事務 ・第1期リニューアル工事（令和5年度実績分） ・令和5年度内部監査指摘事項に対する対応状況 ＜監事監査＞ ・寄附金収受、ファンクラブ会費の会計処理 ・第1期リニューアル工事（令和5年度実績分） ・業務管理 ・決算確認	Ⅲ		
⑥ネットワークセキュリティの強化						
個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を徹底する。	セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を適宜検証のうえ改定を行うとともに、設立団体である大阪市と同等の研修を実施する。	46	・9月に情報セキュリティ研修を行い、過去に法人でも起こったケースについて説明した。また、BCG、CGの違い、持ち出しによる情報漏洩の防ぐためにOneDriveの活用方法について説明を行った。 ・アンケートにおいて、9割近くの職員が「この内容は今後職場で活用及び応用ができそう」と答えており、意見としても「情報の取り扱い方やルールを徹底する大切さがわかって良かった。」「知っていることも改めて認識する機会となった。」「法人での決まりが改めてよくわかった。」など適切な対処について理解が深まったという職員の回答が得られた。 ・セキュリティポリシーにかかるマニュアルについては、検証の結果、マニュアルの周知徹底・研修内容の充実で対応できると考え、今のところ改定の必要はないと判断した。	Ⅲ		

大項目 4－2	4 その他業務運営に関する重要事項 2 来園者の安全確保
------------	--

中期目標	2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価	市長評価		
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
来園者の安全確保						
園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。	大規模かつ長期間にわたる工事が継続することから、来園者及び職員の安全対策に配慮する。	47	・設計・工事受注者の提案による安全対策を継続して的確に実施した。更なる安全対策として、来園者への影響がある場合の休園日または開園時間外施工、工事による既存獣舎避難誘導経路の変更を実施した。 ・設計・工事の法令順守はもとより、技術提案および更なる安全対策の実施により、来園者および職員の事故は発生しておらず、安全に関するクレームも特になかった。 （例）数日間の施工となる外構舗装工事（アフリカの森）について、隔週の休園日に分割した施工となるよう調整・指示を行い、開園日における来園者への影響（通行止めや迂回等）が生じないようにした。	Ⅲ		
	来園者と職員の安全確保及び安定した園運営の観点から、獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。	48	・職員による年2回の獣舎点検を実施した。また、包括管理事業者による日常点検および定期点検を着実に実施し、適時適切に確認を行った。 ・点検結果を踏まえ軽微な故障箇所については、包括管理事業者から速やかに修繕案および見積を提出をさせ、各担当と調整のうえ改善を適時適切に実施した。 （例） 毎月点検・・・昇降機設備（エレベーター） 年1回点検・・・受変電設備、自家発電設備、 年2回点検・・・消防設備、放送設備 等	Ⅲ		
		・引き続き初動訓練に重きを置いた災害訓練を実施する。特に勤務時間外の発災を想定した訓練を実施する。 ・猛獣脱出対策訓練については、事前に職員には周知せず、シナリオのないブラインド訓練を実施する。また、あらたに想定される複数の動物逸走について机上訓練を実施する。	49	【4月】防災研修を行い、全職員を対象に猛獣脱出時の体制確認及び捕獲までの流れの再確認、捕獲道具の保管場所や使い方について再周知した。 【11月】防災訓練（初動訓練、DIG訓練）を実施し、その際自然災害の二次災害として猛獣の逸走があったケースについても訓練を実施した。 【2月】脱出猛獣による職員の死亡事例を経験している講師による座学を動物飼育専門員全員を対象として複数回実施したのち、猛獣脱出訓練を実施した。 ・上記防災訓練について、動物園支援担当とも連携して実施し、緊急連絡方法等の調整を行った。	Ⅲ	

大項目 4－3	4 その他業務運営に関する重要事項 3 職員の安全衛生管理
------------	---

中期目標	3 職員の安全衛生管理 職員が安全かつ快適な労働環境で業務に従事できるよう、安全対策の徹底と事故防止に努める。 また、職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
職員の安全衛生管理						
労働安全衛生法等に基づいた安全衛生管理体制に加え、職員の健康保持促進のための取組みを進めるとともに、職員へ周知徹底する。	安全衛生管理体制を確立するとともに、健診等も含め職員の健康保持のための取り組みを進める。	50	健康診断や必要な予防接種、健康講座などを着実に実施し、安全衛生委員会について毎月1回実施した。また、安全衛生委員会の開催内容にかかる議事について、職員あてに周知した。 ＜主な施策＞ ・ハラスメント相談窓口の設定・周知 ・破傷風予防接種実施 ・健康診断・特殊健康診断実施 ・健康講座実施 ・健康診断事後措置実施 ・ストレスチェック実施 毎月1回 安全衛生委員会、産業医職場巡視を実施した。 ヒヤリハット事例の様式を作成し、事例が起こった場合は各課係長以上に適宜供覧を行うとともに、安全衛生委員会にてヒヤリハット事例を共有した。	Ⅲ		

大項目 4－4	4 その他業務運営に関する重要事項 4 環境に配慮した取組の推進
------------	--

中期目標	4 環境に配慮した取組の推進 環境への負荷を低減するため、天王寺動物園内及び事務所内において環境に配慮した取組を推進する。					
中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
環境に配慮した取組の推進						
WAZA（世界動物園水族館協会）の持続可能戦略で示されたSDGsへの貢献に向け、環境に配慮した取組を推進する。	SDGsに関する園内での取り組みを拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取り組みを進める。	51	Team Expoの共創事業の一環として各種イベントを共同で開催し、ペットボトルのキャップ回収について継続して行った。 また、古くなったユニフォームのアップサイクルを令和5年度に引き続き実施した。 食品ロス削減目的での飼料（レタス等）について継続的に受け入れるほか、令和6年度においてはバンについても受け入れをはじめた。（約27キロ受入） 令和5年度大阪市より譲渡された樹木については、適切に管理し、令和6年度において園路の植栽および飼育動物のエンリッチメントに活用した。	Ⅲ		

大項目 4－5	4 その他業務運営に関する重要事項 5 情報公開の推進
------------	---------------------------------------

中期目標	5 情報公開の推進 法人の運営状況について透明性を確保するため、毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
情報公開の推進						
情報公開を推進し、運営状況の透明性を高めることで、法人の活動への理解及び信頼を得る。 また、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報も、積極的に公表する。	法人に対する理解を深めてもらうよう、財務諸表や年報をはじめとする法人情報等の情報公開を推進する。	52	令和5年度の年報について、法人内で協議し、わかりやすさを意識した内容に変更して法人ホームページで公表するとともに、営業用に製本し、寄附実績のある民間企業等に配布した。 また、財務諸表や役員の報酬額についてもホームページ上で公表した。 さらに、令和6年度年報のコンテンツについて検討を進めた。	Ⅲ		

大項目 4－6	4 その他業務運営に関する重要事項 6 B C P の策定
------------	---

中期目標	6 B C P の策定 地震や台風等大規模な自然災害の発生や新興感染症の流行等によるリスクを最小限とするため、B C P（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
B C P の策定						
地震、台風など自然災害及び新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザなどの新興感染時による対応をあらかじめ定めることで来園者・職員の安全を確保する。	前年度（令和５年度）に発生した動物逸走や停電事案を踏まえ、BCPの改定を行う。	53	BCP検討会議において、被害想定の内容の範囲拡大（園路の倒木なども対象に入れた上での各獣舎単位での被害想定）、停電や飼育動物の逸走などの自然災害以外が発生した際、出勤中/休暇中に関わらず迅速に職員に状況を伝え、参集を呼び掛ける仕組みの必要性などについて確認を行った。 また、防災訓練・リスク管理委員会において、南海トラフ巨大地震だけでなく上町断層帯地震についても盛り込むべきという意見をふまえ、BCPについて上町断層帯地震の被害想定や初動体制について追記し、改定を行った。	Ⅲ		

4. 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

※財務諸表及び決算報告書参照

5. 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1億円 ＜想定される理由＞ 運営にかかる一時的な資金不足への対応、運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れすること等が想定される。	1億円 ＜想定される理由＞ 運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れすること等が想定される。	なし

6. 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

中期計画	年度計画	実績
次の財産について除却により処分する。 令和4年度以降 旧ラクダ舎・カモシカ舎（附1） 令和5年度以降 丸ランウータン舎、キジ舎、コアラ館 横便所 （各施設の付帯施設含む）	なし	なし

7. 前号に規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
なし	なし	なし

8. 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余金が発生した場合、動物の導入及び動物福祉の向上、園内環境の質の向上、教育活動及び調査研究等の充実、人材への投資及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。	決算において剰余金が発生した場合、動物の導入及び動物福祉の向上、園内環境の質の向上、教育活動及び調査研究等の充実、人材への投資及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。	なし

9. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則（令和3年3月31日大阪市規則第63号）で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実績																																																						
（１）人事に関する計画 動物福祉に配慮した飼育を実践するほか、動物や職員 の安全確保を図るため、令和３年度に職員を増員す ることで飼育管理体制の適正化に取組むとともに、そ の体制について検証し将来的な人員配置計画を策定す る。	（１） 人事に関する計画 人材育成方針及び計画に基づき各種人事業務を実施するととも に、必要に応じて方針及び計画を修正する。	・組織の役職や人員数の改編・補充にかかる仕組みを構築した。 ・年度当初ヒアリングを行い、現行体制の検証、見直しを行った。																																																						
（２）施設に関する計画 施設については、中長期的な視点に立ち、計画的な 整備に取り組む。 <table><tr><th>施設の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr><tr><td>・ホッキョクグマ舎（設計・工事）</td><td rowspan="11">7,262百万円</td><td rowspan="11">施設整備費補助金</td></tr><tr><td>・満広の世界（設計・工事）</td></tr><tr><td>・アジアの森ゾーン拡張（計画・設計・工事）</td></tr><tr><td>・新猛禽舎（計画・設計）</td></tr><tr><td>・新夜行性動物舎（計画）</td></tr><tr><td>・アフリカの森ゾーン（設計・工事）</td></tr><tr><td>・日本の里ゾーン（計画・設計）</td></tr><tr><td>・樹上の森ゾーン（計画・設計）</td></tr><tr><td>・休憩エリア（計画・設計・工事）</td></tr><tr><td>・アジアの高地ゾーン（計画）</td></tr><tr><td>・動物病院・研究棟・調理場（計画）</td></tr></table>	施設の内容	予定額	財源	・ホッキョクグマ舎（設計・工事）	7,262百万円	施設整備費補助金	・満広の世界（設計・工事）	・アジアの森ゾーン拡張（計画・設計・工事）	・新猛禽舎（計画・設計）	・新夜行性動物舎（計画）	・アフリカの森ゾーン（設計・工事）	・日本の里ゾーン（計画・設計）	・樹上の森ゾーン（計画・設計）	・休憩エリア（計画・設計・工事）	・アジアの高地ゾーン（計画）	・動物病院・研究棟・調理場（計画）	（２） 施設に関する計画 施設については、中長期的な視点に立ち、計画的な整備に取り組 む。 <table><tr><th>施設の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr><tr><td>・ホッキョクグマ舎（工事）</td><td rowspan="14">1,582百万円</td><td rowspan="14">施設整備費補助金</td></tr><tr><td>・休憩エリア（設計・工事）</td></tr><tr><td>・アフリカの森ゾーン（工事）</td></tr><tr><td>・樹上の森（設計）</td></tr><tr><td>・アジアの森拡張（工事）</td></tr><tr><td>・新猛禽舎（設計）</td></tr><tr><td>・日本の里（設計）</td></tr><tr><td>・ホッキョクグマ舎（設計・工事）</td></tr><tr><td>・休憩エリア（設計・工事）</td></tr><tr><td>・アフリカの森ゾーン（設計・工事）</td></tr><tr><td>・樹上の森（設計）</td></tr><tr><td>・アジアの森拡張（設計・工事）</td></tr><tr><td>・新猛禽舎（設計）</td></tr><tr><td>・日本の里（設計）</td></tr></table>	施設の内容	予定額	財源	・ホッキョクグマ舎（工事）	1,582百万円	施設整備費補助金	・休憩エリア（設計・工事）	・アフリカの森ゾーン（工事）	・樹上の森（設計）	・アジアの森拡張（工事）	・新猛禽舎（設計）	・日本の里（設計）	・ホッキョクグマ舎（設計・工事）	・休憩エリア（設計・工事）	・アフリカの森ゾーン（設計・工事）	・樹上の森（設計）	・アジアの森拡張（設計・工事）	・新猛禽舎（設計）	・日本の里（設計）	（２） 施設に関する計画 施設については、中長期的な視点に立ち、計画的な整備を行った。 <table><tr><th>施設の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr><tr><td>・ホッキョクグマ舎（工事）</td><td rowspan="14">1,582百万円</td><td rowspan="14">施設整備費補助金</td></tr><tr><td>・休憩エリア（設計・工事）</td></tr><tr><td>・アフリカの森ゾーン（工事）</td></tr><tr><td>・樹上の森（設計）</td></tr><tr><td>・アジアの森拡張（工事）</td></tr><tr><td>・新猛禽舎（設計）</td></tr><tr><td>・日本の里（設計）</td></tr><tr><td>・ホッキョクグマ舎（設計・工事）</td></tr><tr><td>・休憩エリア（設計・工事）</td></tr><tr><td>・アフリカの森ゾーン（設計・工事）</td></tr><tr><td>・樹上の森（設計）</td></tr><tr><td>・アジアの森拡張（設計・工事）</td></tr><tr><td>・新猛禽舎（設計）</td></tr><tr><td>・日本の里（設計）</td></tr></table>	施設の内容	予定額	財源	・ホッキョクグマ舎（工事）	1,582百万円	施設整備費補助金	・休憩エリア（設計・工事）	・アフリカの森ゾーン（工事）	・樹上の森（設計）	・アジアの森拡張（工事）	・新猛禽舎（設計）	・日本の里（設計）	・ホッキョクグマ舎（設計・工事）	・休憩エリア（設計・工事）	・アフリカの森ゾーン（設計・工事）	・樹上の森（設計）	・アジアの森拡張（設計・工事）	・新猛禽舎（設計）	・日本の里（設計）
施設の内容	予定額	財源																																																						
・ホッキョクグマ舎（設計・工事）	7,262百万円	施設整備費補助金																																																						
・満広の世界（設計・工事）																																																								
・アジアの森ゾーン拡張（計画・設計・工事）																																																								
・新猛禽舎（計画・設計）																																																								
・新夜行性動物舎（計画）																																																								
・アフリカの森ゾーン（設計・工事）																																																								
・日本の里ゾーン（計画・設計）																																																								
・樹上の森ゾーン（計画・設計）																																																								
・休憩エリア（計画・設計・工事）																																																								
・アジアの高地ゾーン（計画）																																																								
・動物病院・研究棟・調理場（計画）																																																								
施設の内容	予定額	財源																																																						
・ホッキョクグマ舎（工事）	1,582百万円	施設整備費補助金																																																						
・休憩エリア（設計・工事）																																																								
・アフリカの森ゾーン（工事）																																																								
・樹上の森（設計）																																																								
・アジアの森拡張（工事）																																																								
・新猛禽舎（設計）																																																								
・日本の里（設計）																																																								
・ホッキョクグマ舎（設計・工事）																																																								
・休憩エリア（設計・工事）																																																								
・アフリカの森ゾーン（設計・工事）																																																								
・樹上の森（設計）																																																								
・アジアの森拡張（設計・工事）																																																								
・新猛禽舎（設計）																																																								
・日本の里（設計）																																																								
施設の内容	予定額	財源																																																						
・ホッキョクグマ舎（工事）	1,582百万円	施設整備費補助金																																																						
・休憩エリア（設計・工事）																																																								
・アフリカの森ゾーン（工事）																																																								
・樹上の森（設計）																																																								
・アジアの森拡張（工事）																																																								
・新猛禽舎（設計）																																																								
・日本の里（設計）																																																								
・ホッキョクグマ舎（設計・工事）																																																								
・休憩エリア（設計・工事）																																																								
・アフリカの森ゾーン（設計・工事）																																																								
・樹上の森（設計）																																																								
・アジアの森拡張（設計・工事）																																																								
・新猛禽舎（設計）																																																								
・日本の里（設計）																																																								